

平成30年度 佐賀県立唐津東中学校 学校評価計画

<p><b>1 学校教育目標</b> 「自主自律」の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた、地域や国際社会の発展に貢献する、高い知性と志を備えた、心身ともに逞しい生徒を育成する。</p>	<p><b>2 本年度の重点目標</b> ①生徒一人ひとりの学力分析と中高6年間を見通した計画的な進路指導により、高いレベルでの確かな学力の定着と進路意識の高揚を図り、生徒の進路希望の実現を目指す。 ②心身ともに健やかで、チャレンジ精神のある骨太の生徒を育成するため、中高6年間の発達段階に応じた授業、学校行事、生徒会活動及び部活動等を実践する。 ③教職員の教育力の向上を図り、ICT機器、特に学習用PCを効果的に活用した教育実践を一層推進するとともに、効率的な学校運営による組織力の強化を図る。 ④保護者や地域社会の信頼に応え、本校教育の取り組みへの理解を促進するため、広報活動や教育活動の情報発信を活発化する。</p>
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

①生徒一人ひとりの学力分析と中高6年間を見通した計画的な進路指導により、高いレベルでの確かな学力の定着と進路意識の高揚を図り、生徒の進路希望の実現を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	①家庭学習の定着 ②基礎学力の定着と活用力の育成 ③ICTの活用等を行い、自ら探究する力の育成	○家庭学習時間を十分に確保する。全生徒の家庭学習平均時間2.5時間以上を目標とする。 ○学習への興味関心を高め、高校での学習へ繋がる授業方法を研究する。 ○ベネッセGTZのS層を各学年20名以上、S層とA層を合わせて各学年60名以上にする。 ○数学・英語でチームティーチング指導を行い、基礎学力の定着と活用力の育成を行う。 ○ICTを活用した授業により、自ら探究する力の育成を行う。	○定期的に「学習時間調査」を実施することによって、生徒の家庭学習の状況を把握する。また、面談等によって生徒の実態把握に努めるとともに、生活の問題点や改善方法の意識付けを促す。 ○全国模試を中3は年3回、中1・2は年4回実施し、学力向上のために活用する。 ○3年の8月に校内実力考査を実施し、高校進学への意識付けと学力の定着度の確認を行う。 ○学習に対する興味・関心を高める授業を行うために、ICTの活用等や発展的な学習を積極的に推進する。また、新学力観に対応する授業の工夫を行う。その中で、主体的に課題を見つけ、対話的学習をとおして解決法を考える力の育成に努める。
	○進路指導	①中高一貫校の特色を生かした進路指導の研究 ②キャリア教育の充実	○中高の職員が授業等を通じて交流することで、6年間を見通したより適切な進路指導を行う。 ○レインボープランによって系統的な進路指導を行い、将来に目標を持ち、積極的に学ぼうとする姿勢を育成する。 ○大学訪問や特別講座などを積極的にを行い、進路意識の啓発に努める。	○年に2回、中高職員が互いの授業を体験することで生徒理解を深め、発達段階に応じた効果的な進路指導の在り方について考える。 ○将来の社会的・職業的自立に見通しを持つために、職場見学(中1)や職場体験(中2)を実施する。 ○自らの進路について具体的に考える契機とするために、中1、中2で年に1～2回大学等の訪問を実施し、中3では大学生の話を聞く機会を設ける。 ○キャリア教育の観点から総合的な学習の内容を見直し、整理する。

②心身ともに健やかで、チャレンジ精神のある骨太の生徒を育成するため、中高6年間の発達段階に応じた授業、学校行事、生徒会活動及び部活動等を実践する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒会活動	①6年間を見通した生徒会行事・学校行事の推進	○生徒会活動を通して、集団意識を培い、主体的に活動できる生徒の育成を図る。 ○学校生活を楽しく充実したものにするために、生徒が自らの手で、計画・運営する活動にし、日常生活をより活発なものにしていく。 ○高校生徒会と連携し、生徒の自治組織としての機能をより高めていく。	○専門委員会を隔月開催し、各委員会の活動を充実させ、委員会の活動を学級に伝えることにより、全校生徒が各委員会の活動を理解し、学校全体の取り組みとしてよりよい学校作りを行う。 ○各活動にPDCAサイクルを意識させ、次の活動につなげていく。 ○委員会の実施により話し合いや意見のまとめ方など質を上げ、思考力や判断力、コミュニケーション能力を高めていく。 ○中学職員が「何らかの委員会の顧問として」属し、生徒による自主的活動の助けをすするとともに、生徒の社会性の育成や人格形成につなげていく。
	●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着 ②望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○心身の健康や体づくりの重要性について理解し、健康的な生活を送ろうとする意識の向上を図る。 ○家庭の協力を得ながら自ら考え、行動できるよう手助けをする。 ○ミルク給食やフッ化物流出口等の円滑かつ適切な運営を図る。	○部活動においても中高が連携した指導を行う。 ○保健だよりや集会などを利用して、規則正しい生活習慣とその重要性について情報提供を行う。 ○家庭科担当や学級担任との連携を図り、昼食時のミルク取用の指導を行う。食への関心を深めさせ、バランスのとれた食事について考えさせる。 ○昼食後の歯磨きの励行。
	●いじめの問題への対応	①いじめのない学校環境づくり	○互いを尊重し理解し合う生徒を育成できるよう、生徒の意識の向上を図る。 ○「いじめを許さない」という強い心と正しい判断力の育成を図る。	○学年、学級、部活動など様々な場面において、互いを認め合える態度を身につけさせる。また、教師間の連携をとり、共通理解や情報交換を行い、生徒を指導していく。 ○授業や部活動、家庭、地域において、生徒自身が考え判断し行動できるように連携していく。また、生徒が心配や悩みをいつでも相談できる体制を整備する。
	●心の教育	①生命や人権を尊重する意識の高揚 ②ボランティア活動の推進とゴミの持ち帰りの徹底	○心理と平和を愛し、人間尊重の精神を貫く心豊かな生徒の育成を図る。 ○教育連絡協議会や特別支援教育校内委員会を定期的に実施し、職員の共通理解を図る。 ○校内美化に努め、日々の清掃活動を自主的に行う態度を身につけさせる。	○集会や講演会、道徳教育や教科指導などを通じ、生命尊重・人権意識を高める。 ○支援を要する生徒への素早い対応を行う。 ○校内研修会を通じ、支援への知識を深める。 ○清掃ボランティア活動を通して、奉仕の精神を養い、ゴミの持ち帰りを徹底させる。
	○生徒指導	①ルールやマナーを守ることの徹底 ②挨拶の推進	○社会の一員としての自覚を持ち、自主的に行動できる生徒の育成を図る。 ○多くの場面において、互いを尊重し認め合える人間力の育成を図る。 ○校内(授業や休み時間や放課後)に、挨拶を推進する。	○なぜルールを守る必要があるのかを説明して、ルールを守ることの意義を理解させる。 ○学校や地域との連携を図り、社会の中で協力しながら生きていくことを自覚できるように指導する。 ○学校内での活動や部活動において、ルールやマナーの重要性を理解できるよう指導する。 ○校内において挨拶を推進すると同時に、外来者等への挨拶も推進する。
	○読書指導	①読書指導の充実 ②学校図書館の活用	○朝読書の充実を図る。 ○図書貸出し冊数、1人当たり年間15冊以上を目指す。	○朝の読書に読んでほしい本や適した本などを紹介し、朝の読書の質を高める。 ○読書の習慣を身に付けさせ、1人当たりの貸出冊数の増加を図る。 ○図書館のディスプレイの工夫や、図書館だよりによる新着図書PRを積極的に進行。 ○図書委員会を活性化させ、利用者数増加につなげる。

③教職員の教育力の向上を図り、学習用PC、電子黒板等のICT機器を活用した教育を推進し、効率的な学校運営による組織力の強化を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	①ICT活用教育技術の向上 ②ICT活用教育教材の研究 ③授業においてICT機器利用の促進	○全職員が電子黒板を活用でき、学習用PCの操作に習熟する。 ○著作権や情報モラルについての研修を深め、自作教材の開発に役立てる。 ○授業におけるICT機器の利用促進。	○電子黒板及び、学習用PCを活用した授業を一人8回以上実施する。(月一回程度) ○各教科会議の中で教材の共有化をし、各人の負担を軽減しながら、よりよい方策を模索していく。 ○特に教師間授業参観期間ではICT機器利用の広報をする。
学校運営	●業務改革・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化促進	○学校行事等、校務の精選を推進する。 ○自発的時間外勤務を削減する。	○各分掌・学年で、主催する行事・企画等について協議し、優先順位の低いものを見直す。 ○部活動について、効果的かつ十分な休養日を設定する。

④保護者や地域社会の信頼に応え、本校教育の取り組みへの理解を促進するため、広報活動や教育活動の情報発信を活発化する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	①広報活動の充実 ②公開授業等の推進	○学校広報紙「鶴翼」やホームページ等で保護者にも参加を呼び掛け、学校行事の参加率を80%以上にする。 ○学校公開を年4回行う。	○年間6回程度の鶴翼を発行し、保護者にも学校行事に興味を持ってもらい、ホームページの更新を昨年よりは密にする。 ○参加しやすいように土日の開催とし、小中学校などに広く案内を出す。
	○学校経営方針	①重点目標の周知 ②職員の共通理解と共通実践	○学校経営ビジョンや重点目標を理解している保護者の割合を90%以上とする。 ○中高一貫の卒業生の成果と課題を検証し、一貫教育の充実を図る。	○学校だより、振興会総会等を利用して、周知を図る。 ○学校ホームページの更新システムをつくり、内容を充実させる。 ○成果と課題について、検討会を行い、指導法の進化と共有化を図る。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校事務	①学習環境の改善 ②施設・整備の充実 ③県民満足度の向上	○予算の効率的な執行を図る。 ○安心・安全な学習環境の保持を目指す。 ○信頼される事務室を目指す	○各分掌からの予算要望に対するヒアリング、調整を行い効率的かつ教育効果の高い予算執行を行う。また、公用車の利用促進に努める。 ○定期的な施設の点検を行い、危険箇所の発見、環境整備に努める。 ○窓口、電話対応等においては迅速に行う。担当者不在時にも対応ができるよう、事務室内で情報の共有を行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目